

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0174700682		
法人名	医療法人社団 柏木内科医院		
事業所名	グループホーム あおぼ		
所在地	〒089-0541 北海道中川郡幕別町札内青葉町311 (電話) 0155-56-7797		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成19年11月30日

## 【情報提供票より】 (平成19年9月6日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 1月 5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 人, 常勤換算13人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1~2 階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円		
その他の経費(月額)	・水道光熱費 2,500円		
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

## (4) 利用者の概要 (9月20日現在)

利用者人数	17名	男性 名	女性 17名
要介護1	4名	要介護2	3名
要介護3	4名	要介護4	5名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 84歳	最低 78歳	最高 100歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医社) 柏木内科医院・(医) とかちの杜病院・木下歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体が医療法人社団であり、当グループホームの代表は医師である。ホームの正面に代表者の医院・住宅があり、気軽に相談することができ、入居者の健康管理や緊急に対応できる体制になっている。管理者はグループホームの理念や方針・目標等をに重きを置かれていて職員の指導や助言に熱心が伺われる。特に人と接するときの挨拶や言葉の使い方に気を掛けている。共用空間は広いスペースで、家庭で使われる調度品が置かれている。入居者は中・重度者が多いが一人ひとりの能力に合わせて職員と共に食事の準備や後片付け、おやつ作りなど楽しく行っていた。また、新興住宅に位置し、近くには公共施設や大型スーパーもあり、散歩や買い物に外出したりして生活を楽しまれていた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	生活空間づくりについては、玄関先に草花の鉢等で家庭的な雰囲気作りに工夫されていた。ケアサービスは、入浴日が指定されているが入居者の希望に合わせて柔軟に対応されていた。運営体制については、避難訓練などを通じて協力を働きかけていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、それを職員に伝え全員で自己評価を行う時間を設けて取り組んだ。また今までの外部評価の結果も、全体で話し合い具体的な改善に取り組んでいる
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在、開催に向けての準備中である。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かして頂きたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に便りを発行し、利用者の暮らしぶりを知らせている。また、金銭管理は出納帳により定期的に報告している。その他日常での変化や詳細は、個別に電話で様子を知らせている。家族の意見、苦情、不安への対応方法など気軽に受け入れる体制にあり、会議や朝礼に際に話し合い運営に反映されていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事であるお祭り、盆踊り等に利用者とともに積極的に参加して、地域の人々との交流を深めている。また、行事ごと以外にも、地域の主婦や学生等がボランティアとして活動に来てくれ、入居者との交流が図られている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、事業主体の医療と連携し、地域の中で一人ひとりがその人らしく、安心して暮らし続けることを支えていくサービスとして、地域との関係を重視した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時、勉強会、会議などでは職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一が図られている。また、毎日の朝礼の時にも理念に触れ、確認し合うようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事であるお祭り、盆踊り等に利用者とともに積極的に参加して、地域の人々との交流を深めている。また、行事ごと以外にも、地域の主婦や学生等がボランティアとして活動に来てくれ、入居者との交流が図られている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、それを職員に伝え全員で自己評価を行う時間を設けて取り組んだ。また今までの外部評価の結果も、全体で話し合い具体的な改善に取り組んでいる		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を10月に予定し調整中。	○	運営推進会議において、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かして頂きたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が介護認定審査会の委員を務めており、町担当者と意見交換を行うことがある。その際には、管理者等とミーティングを行っている。	○	地域密着型サービス事業所の特徴を生かし、町と積極的に連携し認知症の理解を深める取り組みを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に便りを発行し、利用者の暮らしぶりを知らせている。また、金銭管理は出納帳により定期的に報告している。その他日常での変化や詳細は、個別に電話で様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、声掛けをし何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。意見等には、管理者・職員全員で話し合い、それらを運営に反映させている。また、書類等にも事業所内の相談窓口も明確に記載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が代わる時には、利用者へのダメージに配慮して引き継ぎの時間を十分に取っている。また、新しい職員も自己紹介から始まり、職員の交代による利用者へのダメージへ配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や学習会などには、職員の段階に応じて順番に参加できるようにしている。また、ミーティング等で報告して職員全員で共有してケアの向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や、同時期に開所した事業所などと学習会や交流会を持つようにしている。	○	町内には管内でもグループホームの開設比率が高く、他のグループホームの見学や相互研修会を通じて、事業所以外の人材の意見や経験をケアに生かして頂きたい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用できるよう、ホームを見学してもらうことから始めている。サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら進めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「入居者は人生の先輩である」という考え方を、職員全員が共有しており、生活の中で利用者が職員から学ぶことも多い。共に支えあう関係づくりを重視しており、本人の思い、不安、喜びなどを知ること努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちに向き合い、話し合いなどを行い思いや意向の把握に努めている。困難な方には、表情などから汲み取り家族や関係者から情報を得るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ全員で話し合い、課題を明確にして意見交換やカンファレンスを行っている。本人、家族の希望を聞き、また日頃の生活の中から汲み取り、その人らしく暮らせるよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、月1回程度、本人、家族の今の意向や状況を確認している。変化があった場合は、現状に即した新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営主体の医院と連携がとれており、受診や往診が柔軟に行われている。そのため、受診や入院などが回避されており利用者や家族の負担を軽減されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営主体の内科医院と隣接しており、看護師への相談も気軽に行え利用者の健康管理もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期への事業所方針は、職員全員が共有している。一生ホームに居たいという入居者の希望には、そのように対応しており取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングで意識向上を図っており、職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしていた。また、記録等の個人情報の取り扱いも徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、職員は利用者のペースを大切にしてゆったりとした暮らしを確保している。その日をどのように過ごしたいか、希望にそって（買い物や散歩等）支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、献立から調理、後片付けを共におこなっている。しかし、無理にではなく本人の力を活かし楽しみながら行えるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を設定しているが、その日の利用者の気分に合わせて無理強いはいはしないが、清拭やシャワー等で状況に合わせた対応をしている。声掛けや等で入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に合わせて、経験や知恵を発揮してもらえるよう生活の中で役割、楽しみごとの場面を作る工夫をしている。行事、買い物、散歩等も職員が決めるのではなく入居者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごさずことがないよう、その日のお天気や利用者の希望をきき、買い物や散歩等に出かけている。歩行の難しい方でも、車椅子等を利用し外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、安全面を配慮しながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は入居者の行動パターンやその日の気分を把握し、見守りを意識しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と共に避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使用方法的訓練を行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎日チェックし、栄養バランスや水分量を考慮している。一人ひとりの嗜好を把握し、献立に生かしながら支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者とフロアの飾り付けを行い、季節感を採り入れていた。自分の家と思えるような、居心地のよい生活環境が作られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が過ごしてきた自室との違いによる不安を最小限にするため、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が落ち着いて居心地よく過ごせるように工夫をされている。		

※  は、重点項目。